

# 学校図書館の三機能を生かした授業づくりの研究実践

広島県 北広島町立八重東小学校

## 基本データ

所在地 山県郡北広島町有田  
1897-1

児童生徒数 129人

教職員数 14人

蔵書数 5,389冊

年間貸出冊数 約19,000冊

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】情報活用能力の育成、情報機器の活用

【活動のねらい】

- 学校図書館を活用した授業づくりを通して、「主体的・対話的で深い学び」をめざす。
- 導入、展開、まとめの場面において、ねらいを明確にした図書資料を活用する場面を設ける（課題発見・課題解決への見通し・課題解決に図書資料を活用等）。
- また、次の点に留意した。
  - ① 図書館を活用して調べ学習を行うこと。
  - ② 課題解決に必要な図書資料を児童自ら選択すること。
  - ③ 話し合い（考え・意見）の根拠として図書資料を用いること。

## 取組・活動の概要

- 本校は、研究主題を「本に親しみ 主体的に調べ学ぶ児童の育成～読書活動と図書館機能を取り入れた授業づくりを通して～」とし図書資料を活用した主体的・対話的で深い学びの授業づくりをめざして研究実践をしている。
- 「主体的に調べ学ぶ」とは、次のような児童の姿を指す。
  - 自ら課題を見つけ、進んで解決しようとする。
  - 課題解決に向け、友達と協働しようとする。
  - 課題解決に必要な資料は何かを自ら考え、探したり見つけたりしようとする。
  - 課題解決に必要な情報を図書や資料を活用して調べ、取捨選択して活用する。
  - 分かったことや自分の考えを自分の言葉で表現する。



図書を活用しての調べ学習（1年 生活科）



全体協議でのグループ発表（3年 総合的な学習の時間）

## 【活動内容】

- 司書教諭・研究主任を中心とし、図書館の三つの機能を取り入れた学校独自の学びのスタイル確立のための研究（授業研究）と、日々の授業改善。
- 研究実践の成果と課題を、令和元年度広島県学校図書館研究大会の会場校として授業提案・実践報告をした。

## 取組・活動の工夫や特徴

- 「学校図書館を活用した授業づくりを通して、『主体的・対話的で深い学び』をめざす」、「導入、展開、まとめの場面において、ねらいを明確にした図書資料を活用する場面を設ける」ことを共通認識し、図書館機能と各教科の関連を

計画的に図るため、全学年で図書館教育にかかわる年間指導計画を作成している。

- また、各学年の発達段階に応じて身に付けたい情報活用力の目標指標を明確にして授業づくりを行っている。

	低学年	中学年	高学年
情報を収集する技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の興味関心のある事柄について、現地の様子や動物の観察を行い、情報を集めようとする事ができる。</li> <li>・指導者が選書、収集した図書資料の中から、自由に必要な情報を見つけようとする事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べの内容に応じて情報を集める活動を考え、実地調査や実物の観察、読書聞や地域住民と連携を図り、情報を集めようとする事ができる。</li> <li>・調べの内容に応じて、情報を集める図書資料などを選択し、課題解決に必要な情報を集めようとする事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べの内容に応じて情報を集める手段を考え、実地調査や実物の観察、読書聞や地域住民と連携を図り、情報を集めようとする事ができる。</li> <li>・調べの内容に応じて、情報を集める図書資料などを選択し、課題解決に必要な情報を集める事ができる。</li> </ul>
情報を読み取る技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料などから、事実を正確に読み取ろうとする事ができる。</li> <li>・学習上の課題の解決につながる情報を読み取ろうとする事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料などから、事実を正確に読み取ることができる。</li> <li>・学習上の課題の解決につながる情報を読み取ることができる。</li> <li>・虚構できる情報かどうか判断して読み取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料などから、事実を正確に読み取ることができる。</li> <li>・学習上の課題の解決につながる情報を読み取ることができる。</li> <li>・虚構できる情報かどうか判断して読み取ることができる。</li> </ul>
情報を比べたり結び付けたりして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一の事象に関する異なる資料（グラフと文章など）や異なる表現（図表の表現など）の情報を、見比べたり結び付けたりして読み取ろうとする事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一の事象に関する異なる資料（グラフと文章など）や異なる表現（図表の表現など）の情報を、見比べたり結び付けたりして読み取ろうとする事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一の事象に関する異なる資料（グラフと文章など）や異なる表現（図表の表現など）の情報を、見比べたり結び付けたりして読み取ろうとする事ができる。</li> </ul>
情報をまとめる技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者やG.Tの話を聞き、メモを取ろうとする事ができる。</li> <li>・知識情報をグラフや表にまとめようとする事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者やG.Tの話を聞き、メモを取ろうとする事ができる。</li> <li>・知識情報をグラフや表にまとめようとする事ができる。</li> <li>・項目やカテゴリごとに整理しようとする事ができる。</li> <li>・相互関係を整理して図にまとめようとする事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者やG.Tの話を聞き、メモを取ろうとする事ができる。</li> <li>・知識情報をグラフや表にまとめようとする事ができる。</li> <li>・項目やカテゴリごとに整理しようとする事ができる。</li> <li>・相互関係を整理して図にまとめようとする事ができる。</li> <li>・情報関係をを用いて、統合したり構築したりする事ができる。</li> </ul>

情報活用力の目標指標

- 図書館機能を生かした授業づくりの基盤として、学ぶ意欲を喚起する「導入の工夫」、学びの深まりのための「小集団学習と学び合いの充実」、学びの広がりと自主学習等につなげる「まとめと振り返りの充実」を明示した主体的・対話的で深い学びをめざすための「八重東型授業モデル」を策定して授業改善を図っている。

### 取組・活動の成果や今後の展望

- 今年度の学校アンケート結果では、図書資料の活用については、  
「授業に関係ある本を進んで使うことができている（87.6%）」  
「自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表することに取り組んでいる（92.6%）〔5年〕」  
など、学習で図書資料を活用しようとする意識が高まっている。
- 児童一人あたりの月平均の読書量は、20冊である。
- 諸学力調査等におけるアンケート結果は、次の通りである。

【R1「全国学力・学習状況調査」で肯定的回答をした児童割合】

- 読書は好きである 84.2%  
(全国 44.3%、広島県 45.0%)
- 図書室等に週1～3回以上行っている 26.3%

(全国 17.2%、広島県 13.6%)

- 普段30分以上読書をしている 47.4%  
(全国 40.5%、広島県 42.7%)

【R1「広島県『基礎・基本』定着状況調査」で肯定的回答をした児童割合】

- 本を読むのが好き 96.3% (広島県 80.1%)
- 読んだ本の内容について友達や家族と話をしている 88.9% (広島県 59.5%)
- 家で本や資料などを利用して学習している 85.2% (広島県 61.2%)
- 1ヶ月に6冊以上本を読んでいる 70.3% (広島県 37.3%)

- 授業では課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしている 92.6% (広島県 50.4%)

- 授業では課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報が集めることができるか考えている 88.9% (広島県 59.6%)

- 授業では、情報を比べたり仲間分けしたり関係をみつけたりして何が分かるか考えている 100% (広島県 73.6%)

- いずれの項目も、全国・県平均を上回っており、読書好きの児童が増加し図書を活用して学習する意識が高まっていると言える。
- 全体的に読書活動は充実してきているが、読書の習慣化・質に個人差があることが課題である。
- 調べ学習については、図書を活用することは充実してきたが、目的に応じて図書を選択したり資料を比較・分類したりして課題解決をしていく力をつけることについては、今後も継続した取組をしていく必要がある。